

水道料金について



松尾 幸宏
(清風会・誠真会)

問 加西市は水道料金が高く他市への人口流出の原因にもなっている。現在の基本料金の水量が20立米に設定されている根拠と、県内他市の基本水量の設定はどうなっているのか。

国の調査によると、独居世帯が全世帯の3割を超えたという統計が発表された。私の町内でも一人暮らしのお年寄りの方が増えてきたが、基本水量に達していない方が大半。家庭用の契約者で2ヶ月の水道使用水量20立米以下の軒数と割合は。

公共料金問題審議会より現行料金を10%引き下げる答申を受けた

が、値下げと共に現在の料金体系に変更はあるのか。

少子高齢化、核家族化により独居世帯が増える中、基本水量を2ヶ月で10立米に下げれば基本料金を少しでも安くでき、節水の意識もできるのではないかと。

答 公衆衛生の向上の観点から生活上必要な一定程度の水を使用する事を目的として基本料金に付与する形で、基本水量20立米で実施してきました。

県内50団体の内、2ヶ月の基本水量20立米29団体、16立米2団体、14立米1団体、10立米4団体、ゼロ14団体です。また家庭用契約者で2ヶ月の水道使用水量20立米以下は、合計4,250軒(約29%)です。全国的な少子高齢化の進展、単身世帯の増加、節水型機器の普及などで少量の使用者が

徐々に増えてきています。また、加西市では約2,100戸の井戸水との併用も一因と考えています。

公共料金問題審議会の答申では、基本料金、従量料金一律10%値下げとなっており、基本水量を低くした料金体系にすると、基本水量に満たない方の負担軽減になる一方、市としては料金収入の減少や、使用水量の多寡により値下げ率に差が出ることも考えられます。

高齢者の一人暮らしの方に、水道料金の基本水量を下げて対応するか、高齢者対策として別途考えるのか等、9月議会までに検討をしたいと思います。

■その他の質問項目

- ・北条鉄道の運営

宇仁小学校の改築



織部 徹
(21 政会)

問 ①宇仁小学校の改築だが、危険な校舎に現に子どもが通っているということ、又地域住民の避難所に指定しているということは許されない。同校の改築は地域の方の長年の念願だった。改築に踏み切ったことは高く評価するが、改築においては他の学校の立地条件ではあまり見られないような谷間だが、どのような校舎を建てる予定か。

②学校は大体高台にあることが多いが、宇仁小学校を建てようとして造成している所は谷間になる。北側には裏池とその上に谷乗池がある。池がもし決壊でもすれば大変なこ

とになる。学校は避難所にもなるし、できるだけ基礎を高くするなど十分検討して、設計に生かしてもらいたい。

答 ①改築については、運動場より1メートルほど高い位置に敷地を確保しています。一番西側にプール用地を確保しており、その次にコンパクトですが、すっきりとした建物を計画したいと考えています。改築によって十分な改善をしたいと思いますが、補正予算が議決されれば本年度の7月から8月に発注します。南側に教室、北側に特別教室、便所等の中廊下式の校舎になると想定しています。一番東側は体育館等の移転もありますので確保しています。配置、間取り等は地元と協議していきたいと思っています。

②現在考えているのは、校舎の1

階の床の高さを地面から50センチ程度上げて計画いたします。構造は災害に強い鉄筋コンクリートとしたいと思います。仕上げ材は木材にしたいと思います。

■その他の質問項目

- ・学校・教育問題
(小学校統廃合、部活動指導補助員、保健室の外線電話、コンピュータソフトの更新)
- ・安全・防災
(防犯灯の設置、通学路の整備)
- ・医療問題
(頭部外傷病人の受け入れ、救急医療体制)